

身近な無駄をポジティブに地域創生 ～ボナペティ小金パン～

千葉県立小金高等学校
チーム「インディペ」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

プロジェクトの目的

- * 地域の特産品の中のB級品を活用する
- * 地産地消を推奨する
- * 飲食店さん農家さんの両方の役に立つ
- * 地域の環境問題について知ってもらう

キツカケ

- ・ 入学以来SDGs 関連のワークショップに参加し学びを深める
- ・ 高校生としてできることは何か考えるようになる

* SDGsに関連した街おこしを企画

- ・ 地域の特産を生かすことにより同世代にもっと地域や環境に関心を持ってほしい
- ・ SDGsが身近であることを知って欲しい
- ・ 便利と保全を両立したい

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



千葉県は梨の名産地！



最初の考え

商品にならない梨を提供してもらおう

地域のカフェやケーキ屋などで
パフェなど商品化！

「松戸NASHIパフェ」

地域の名産に！

松戸を梨パフェの聖地に

松戸に来れば梨パフェが食べられる！



しかし 最初の企画は失敗

- 企画をもっていったが門前払い
- 梨はスイーツにしにくい
- 協力してくれる梨園が見つからない
- 企画自体がアイディアの域を抜け出せていない

いつのまにか梨の時期が終わってしまう！

→消化できないまま**挫折**...



反省点

- 環境面を考えすぎて**ビジネスの視点**を持てなかった
- **人脈**が狭くおもいきった行動がとれなかった
- ゴールだけを見すぎて**過程**をちゃんと考えられていなかった

- **信頼**を得られるための手順をふめていなかった
- 高校生という立場に頼りすぎていた
- **事業者の本音**を聞く機会が少なかった
→寄り添った計画を立てていなかった

もういちど企画の練り直し

*** 誰の困ったを解決するのか？**

農家：購買力をあげたい

販売店：地域の人にアピール

→お世話になっている方ともっと親密になりたい



プロジェクト実施計画

人脈を広げ、信頼を得て行動範囲を広げる

→市役所 **総合政策推進課** に協力いただく

農家さんの紹介（あじさいネギ、新松戸レモン）

地域の食材を使ってくれる飲食店さんをさがす

→**コラボ商品**を発売したい

校内でも限定販売

→消費してもらうことで**環境問題の認知と地域貢献**につなげたい

私たちの活動を発信するフリーペーパーを製作

新松戸レモン知ってますか？



温暖化がもたらしためぐみ

地球温暖化によりここ数十年で栽培が可能に

環境破壊は防ぐべきだが、メリットを探して環境に
順応していくことも大切！
いつかは小豆島を超える産地にしたい

8 働きがいても
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



新松戸レモンとコラボ決定！

- 完全無農薬、ワックス不使用
→皮まで食べられる
- 果汁に甘み
→他のレモンとの差別化
- 地産地消
→輸送コストの削減



直売所も人気 今が旬！



次にあじさいねぎの 農家さんに会いました



松戸本土寺あじさい寺で有名



「あじさいねぎ」の
名前はそこから命名

本土寺参道で
お土産物屋をしながら
「あじさいねぎ」を
作っている

あじさいねぎを広めたい

農家さんの苦悩・・・

- ・「深谷ねぎ」「千住ねぎ」にはかなわない
- ・単価が安い
- ・外国産におされる

→付加価値が欲しい
継続的に流通させたい



関連商品も販売



あじさいねぎの加工品

以前あじさいねぎを使ったソーセージやごはんみその加工品を作っていた

→なかなかヒット商品にならず**ブランド力**に貢献できず

工場をすぐに止めることもできず在庫をかかえてしまう

食品ロスを減らし**ブランド力**をあげるためにスタート

→**賞味期限切れ**の商品がロスとなる

売り切るために割引しても「売れてない商品だ」とイメージダウン

以上のこともあり

ねぎ農家さんははじめコラボに**非協力的**だった

ロスの認識の違い

定期的に出る B 級品

ロスをだす前提で作ってはいない

流通に失敗した物を市場に出すのは困難

→地元の飲食店と繋がれば

安定した出荷と宣伝効果が見込める

→コラボ決定！！

食材を活かすには？

- 地元の食材を地域の人への認知を高めたい
- 地産地消を推進したい



地元の食材を使いたい
飲食店は必ずある！そこで！！

ISHIYAMA
SAFFRON

SAFFRON

3月16日(日)

半額金券セール



飲食店側の利点

- ・ 高校生とコラボすることは **S N S** 大きな宣伝効果になる
- ・ 地元の食材を利用すれば、安心してもらえる
- ・ 仲介手数料がかからない
- ・ 農家との繋がりがひろがる
- ・ SDG s に関心の高い顧客に需要あり

両者のニーズが一致

サフラン新松戸店（パン屋さん）

「地元の食材を使いたいと思っていた」

- ・ 従来メニューで業者から買っていたねぎを
あじさいねぎに変更
- ・ 新松戸レモンを使ったパンやスイーツの販売

農家さん、飲食店の両方の困ったを解消

「ねぎパン」

既存のねぎパンにすぐにあじさいねぎが使われる



「小金パン（仮）」の商品化

- ・ 高校生ならではの視点でメニューを考案
- ・ 環境問題の周知につなげたい

サフラン店長さんと
新松戸レモンさんと
共に商談のもと商品開発



コラボ商品の完成

左：ねぎ



右：レモン



限定校内販売

目的

- ・ 校内の生徒に地域の食問題や特産物に触れてもらう
- ・ 消費することで地域貢献にしてもらう
- ・ なくなってしまった行事に代わり楽しんでもらう
- ・ 社会貢献になる活動の楽しさややりがいをアピールしたい

日時

2月10日 昼休み（1,2年生対象）

緊急事態宣言により販売方法を再検討中

さらなる人脈の広がり

- ・ 地元の
フェアトレードカフェ
- ・ こども食堂
- ・ サンマルクの社長



→それぞれの視点からのアドバイス
さらに人脈が広がったり、他の活動
に繋がったりしている

こども食堂での活動

目的：食料の過不足をできるだけなくす

①市内のこども食堂「deあい食堂」へ連絡

金銭的な苦勞を直接聞き活動内での支援を約束

②市内の「スローカフェ」（無農薬・フェアトレード）へ直接出向く

店内で消費しない食材を提供していただくことが決定

③実際に、時間のとれた放課後にカフェから子供食堂へ運んだ



サンマルク社長と対談

新たな視点

- ・ さらに身近な**家庭内の食品ロス**の現状
- ・ 日本の食料自給率が他の先進国より劣っている
 - 農業を支えるような活動
- ・ 高校生が社会に向けて働きかけることの意義を再確認
 - 新たな関心を呼び、**継続的な活動**に繋がっていく

直接的な関わりを作る
別視点でのアクション
活動の発信

超文化祭での発表

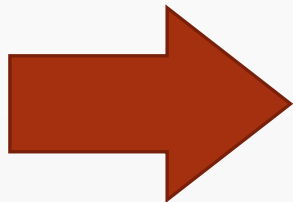
12月26日

運営 : Think the earth

Zoomにて5分間プロジェクトについてスピーチ

→参加料から各プロジェクトに活動資金が送られる仕組み

- ・全国各地のSDG s に関する取り組みを行う学生と繋がり意見交換
- ・**スターバックス、ピープルツリー**の企業としてのSDG s 取り組みを知る
学生や他企業からの鋭い質問に驚愕
- ・**不二製油**のワークショップに参加しパーム油の生産問題について考えた



同世代の話の中に共通の課題や
アイデアがあった
具体的なゴールが見えた

超文化祭に参加して感じたこと

- ・同世代に同じ課題やアイデアを持っている人たちがいた、不可能だと思っていたことを実行していた
 - **自信が付き、活動の幅が広がった**
- ・外部に活動を広げるには資金が必要
 - **より利益を考えるようになった**
- ・運営の大学生を見て将来的にも活動を継続したいと思った
- ・自分たちの活動のアピールがより大きな繋がりを産む
- ・企業ならではの活動を知った
 - **世の中の評価基準にSDG s が当たり前に関わる社会にしたい**

プロジェクト中の気持ちの変化

プロジェクト実行にあたり計画にはなかった活動をたくさんできた

- 協力して下さる方の期待が自信となり積極的にアタックできるように
- 応援をもらった時は、自分たちのプロジェクトに自信が持てた
- パンが完成したときや実際にこども食堂の役に立てたときには達成感があった

大人が対等に話し合ってくれるようになった

- 自分自身に自信を持てるように
- 責任感が高まった

校内販売を楽しみにしてくれる友人や先生方に恩返しをするためプロジェクトを大きくしやり遂げたいと強く思うようになった

今抱えている新たな問い



- 自立してからどのように活動するか
(SDGs に配慮した生活、新しい生活様式の発信活動)
- 企業に働きかける以前の家庭内の身近な食問題の解決
- 効率的かつ効果的な発信方法
- 別の視点から見た身近な無駄や見落としはないか

学んだこと

- ・事業者と一緒に活動することで**大人として関わる責任**を学んだ
- ・様々な場面で発表したり、活動を伝えたりしたことで
まとめて話す力がついた
- ・同年代や事業者の話から新たな視点を得たり、**ビジネスの視点**で
物事を考えられたりするようになった
- ・学生という立場によって生まれる付加価値があると知った
- ・高校生という立場だったが人脈を広げたり、失敗を繰り返す
ことで大きなプロジェクトを実現できた

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

発信する責任があります

発信の目的

- ・ 同世代に地域の食問題や特産物について認知度を高める
- ・ 高校生の立場でできる社会貢献をプランニングする
- ・ 地域の事業者のブランド力を上げる

発信の方法

- ・ フリーペーパーの作成
- ・ イベントでの発表





「ボナペティ～小金パン」
身近な無駄をポジティブに地域創生

ありがとうございました

千葉県立小金高等学校

チーム「インディペ」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT  GOALS